

おならみたいな音がして違うよ、知ってるよ、って笑ったこともおぼえて  
る

関係として起こる快楽を、ぼくはここでぎりぎりど噛み締めている

イマジナリー・グリーンハイツ・井田

夕方には帰るグリーンハイツ・井田

このドア蹴破ろうと思えば蹴破れそうだよねってチャイムを押して笑って  
るけど

もし誰かがほんとうにけやぶってきたらどうしようかと思うとそれが今は  
ちばんこわい

階段をじぐぎぐに下りて、坂を下りて、大学を抜けて、うちに帰る

昔の人が懐中時計を入れていた小さなポケットに貰った丸い合鍵を差し込  
んで無くさないようにする

ぼくはじょうずに生きていきたいのでひとりでもぐっすり眠れるけれど

たまに眠れないときはヘッドフォンをしてベランダでお酒の缶を飲んだりも  
する

三日月の周りに大きな星がたくさん見えると、ミヤザキさんの眼が笑って  
みたいだと思

安心して目を瞑り思いを飛ばす、イマジナリー・グリーンハイツ・井田

翌朝目を覚まして外に出あるいてもおそらくミヤザキさんはどこにもいない  
グリーンハイツ・井田もたぶんない

ミヤザキさんはみんながぼくの三分の一でも心配してくれればいいのに、と  
つぶやいていた

月みたいに瞳は鏡

ミヤザキさんとぼくは当然のように似ている

ぼくを映すミヤザキさんは現実の断片の総体で

これはフィクションナル、出来事は全部イマジナリーなもので  
全然別な現実をぼくはあえてこうして形に残そうとする

足りないものしかないからこうして空想をしてあそぶ